

②ガラムマサラで作った塗料

⑩みんなで作った
思い出のレンガ

⑩⑩スパイスの乾燥室

⑦工具箱

⑤パーゴラ

①プランターを
再利用した照明

①①町の中の
キッチン

③簡易屋台

⑤スパイスの植生に
合わせて日当たりを設計

⑤スパイスや野菜を
育てる花壇

⑥ランチョンマットで
のれんを作成

⑦カレーを囲むちゃぶ台

町につながる土間

⑦道の前の机

⑧風の通り道を
示すかざぐるま



1F 平面構成



賑わいと緑の表出



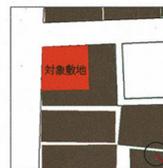
引き込む通り土間は多様なアクティビティを誘発する。

通りに面した広い階段が上階に引き込む。

町をはぐくむカレー屋さん

Site

対象敷地は、商店街から一本通りに入った奥にある角地である。この町は開発が進む一方、昔からある商店が立ち並んでいる。昔から住んでいる人が多い一方で、若い人の入れ替わりも激しい。



Concept

この町には、昔から地域の人に愛されているカレー屋さんがある。しかし、このカレー屋さんの店主はちょうど1年後に店をたたんで田舎に帰ることを決めている。
町にとって「第二の家」として長年あり続けてきた街角のカレー屋さんなくなってしまうことは、町のアイデンティティーを一つ失うことである。おじいちゃんが田舎に帰った後もこのカレー屋さんが「第二の家」であるために、おじいちゃんがいなくなったカレー屋はどのように第二の家になっていくのだろうか？
そこで、店をたたむまでの間に地域の人々を巻き込んだ「この場所に酸素を送り込む11回のWS」を企画する。
おじいちゃんはいなくなったけど、昔と同じ匂い、賑わいが町に漂う場所をみんなで考えていく。
カレー屋と地域、そして建築家、それぞれの関係性を織り交ぜていくことで、この町に新しい関係性を生みながら、場所を作り、育んでいく。

Diagram1

- カレー屋 × 地域 × 建築家 -

現状のそれぞれが持っている関係性同士を、要素をごとに分けていくと、今までの関係性を超えて、多種多様なネットワークが新しく出来上がり、町に新しい関係性を生み出す。

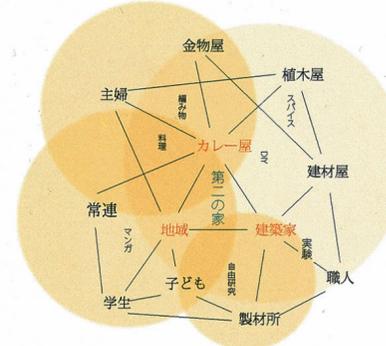
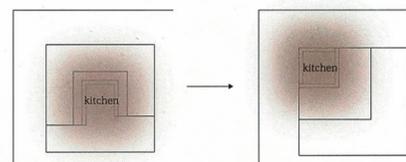


Diagram2

- 町の中になるキッチン -



店の中心にあったキッチンを街に開いていく人の居場所は店内から街へはみだしていく

Diagram3

- カレーライスからケンチクを考える -



この場所のあり方を見つめ直し、町に開いていくために、カレーを作るプロセスからWSを企画し実験的に建築の姿を探していく。

- 5月 スパイスの苗植え
- 6月 あみもの
- 7月 木工体験
- 8月 かざぐるま作り
- 9月 レンガ作り
- 10月 スパイスの乾燥
- 11月 暖炉作り
- 12月 カレー作り
- 1月 照明作り
- 2月 スパイスで実験
- 3月 屋台作り



クミンやターメリックなど、カレーの原料となるスパイスのそれぞれの植生を観察する。

地域のお母さんたちを中心に、お気に入りのランチョンマットを編む。

町の製材所の協力を得て、みんなでカレーを囲む食事台などを作る。

この建物周辺の風の通り道を見つける。

材料から建築を考える。

5月に苗植えたスパイスを収穫し、乾燥させる。

9月に作ったレンガを使って簡単な暖炉作りをする。

WSで作ったスパイスや食事台を使って地域の忘年会をする。

モノを再利用することを考える。

栽培したスパイスを土やモルタルに混ぜて、これから建つ建物の素材の実験をする。

来月から本格的に始まる工事の間も、カレーが食べられる。